

「令和6年度の振り返り」

大矢知地区自主防災協議会 前川 豊

令和6年度は「イメージできる人を育てる」をテーマに以下の内容で活動しました。

- 1 災害をイメージできる人を育てる（災害に対する備え）
啓発 大矢知まつり（地区社協行事）にて防災展示
訓練 地区防災訓練にて地震体験、放水体験、AED体験
研修 四日市防災センター見学、静岡防災センター見学、浜松一条堤見学
- 2 避難をイメージできる人を育てる（避難に対する備え）
研修 避難スイッチ、避難場所について研修、避難行動要支援者について研修
- 3 避難所をイメージできる人を育てる（避難所での行動を検討）
研修 避難所運営マニュアルの研修
訓練 避難所開設の模擬訓練

これらの活動から、あらためて東側（海側）地区と西側（山側）地区では災害に対する危機意識の対象（東は津波・高潮、西は洪水・土砂）が異なり、地区自主防としては十分な対応ができず、イメージできる人の育成も不十分だったと反省しています。

今後も活動内容を step up しながら少しでも役立つ地区防災の活動を続けて行きます。



防災備蓄品展示
（大矢知まつり）



地震体験
（四日市市防災センター）



救急救命（AED）訓練



避難所開設及び体験

三つ巴の訓練で「連携企業と一体化」した港地区防災活動！！

港地区自主防災組織連絡協議会 会長 加藤 亘

港地区は令和7年4月現在 40.4%の高齢化率であり、40%を超えて10年以上が経ちます。

津波の脅威、住宅密集地による火災の延焼等から高齢者を守る事が地区の課題のひとつです。そのため港地区では毎年「リーダー養成訓練」「総合防災訓練」「グループ別防災訓練」の3つの訓練を実施しています。

「リーダー養成訓練」は、災害時においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、「総合防災訓練」は、高齢者を含む地区住民が津波避難の方法、避難所運営等の手法を学ぶことを目的としています。

3つの訓練のうち最も特色のある訓練が「グループ別防災訓練」です。港地区は地区内外51 社団体と防災連携をしています。地区を6つのグループに分け、それぞれのグループに立地する企業からの発案を以って、各自治会と内容を協議した上でグループ毎に訓練をします。

また、グループの長となる企業には港地区の毎月の防災会議に出席していただいております。港地区が考える防災について知ってもらう事、顔の見える関係を作る事で、企業と災害時の協力体制を築いています。

港地区は防災連携企業の力を借りつつ、高齢者の自力避難を目指し、「問題点」を改善して防災力の向上に努めて参ります！



連携企業参加の
防災運営委員会



グループ別防災訓練
（南納屋町・西末広町グループ）

三重地区女性防災隊「M I E むすび隊」発足

三重地区自主防災会 会長 平野 良幸

三重地区では初めての女性防災隊を発足しました。女性目線での知識や経験などを活かし地域のお子さんから高齢者まで幅広く防災意識を高めていただけるよう活動を開始しました。

令和6年度は、11月10日(日)に体験型イベント「防災フェスタ」をはじめて開催し、地域の方に多数参加していただきました。

0次の備え(外出先での被災を考えてカバン等への備え)として、「自分がないと困る」を基準に防災用品を選び独自の防災ポーチを作り、日頃からの備えを意識していただく取り組みを実施しました。

毛布担架ブースでは、防災キャラクターを親子で運ぶ体験に楽しく参加していただいたり、防災食ブースでは、食べたことのない保存食を試食することで、普段からのローリングストックにつなげてほしいと声をかけ試食も行いました。

ほかにも、簡易トイレを段ボールで作る実演や水消火器体験、起震車体験などを実施し、防災について楽しく体験できる場を設けました。

今後も楽しみながら防災を体験できるイベントなどを企画し、地域の方と一緒に防災意識を高めていきたいと思います。



世代や年齢を越えた防災・減災への取り組みを行っています

小山田地区防災連絡協議会 会長 岸本 久義

近年の地域防災の観点として、自助・共助を重視した取り組みや、地域コミュニティの活性化、デジタル技術の活用などがありますが、小山田地区においても地域コミュニティの活性化と自助・共助の考え方を組み合わせた活動により地域防災力の向上を目指しています。

令和6年度には、防災・減災について自ら学び、行動することを活動方針として小山田地区女性防災隊「フラワー」を立ち上げ、防災講座を開催し、防災用備蓄品や災害時のトイレ使用方法などについて参加者とともに学びました。

また、地区内にある中学校において行われた生徒向けの防災教室に、地区防災連絡協議会の委員も参加し、講義を聴くとともにワークショップに参加し、中学生のみなさんと意見交換を行いました。

このように、世代を越えた活動を行うことで、地域防災の意識を広く浸透させていきたいと考えて今後も取り組んでいきたいと考えています。

